

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
自己表現とコミュニケーション分析 (Basic)		選択	2	1.2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt;コミュニケーションにおいて、自己表現を大切にすることは、相互理解が深まり信頼関係を築くだけでなく、双方の問題解決に役立ち、自己価値を高めて、主体的な人間関係を得ることができる。本演習では、自己表現に必須の「分かりやすさ」に焦点を当て、他者に理解される自己表現の構成力を身に着けることを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt;自己表現の「分かりやすさ」を学び得るために、小説や俳句、詩文等の多様な文体コンテンツも活用しながら、課題作成を通して、自己表現に資する構成力のエッセンスを体験的に学ぶ。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	コミュニケーション力の向上を目指した1年生向けの基本的な科目なので、気軽に受講して下さい。				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書	「簡潔で心揺さぶる文章作法-SNS時代の自己表現レッスン」島田雅彦 (著) KADOKAWA				
外部教材	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	コミュニケーションにおける自己表現の大切さを理解できる。			HC(6)	
②	他者に理解される自己表現の「分かりやすさ」を構成できる。			HC(2)	
③					
④					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション: コミュニケーションと自己表現	講義・演習	授業の目的を理解する。	2	
2	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法①	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
3	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法②	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
4	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法③	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
5	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法④	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
6	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑤	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
7	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑥	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
8	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑦	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
9	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑧	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
10	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑨	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
11	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑩	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
12	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑪	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
13	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑫	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
14	自己表現を高める「分かりやすい」文章作法⑬	講義・演習	課題に取り組み提出する。	4	
15	まとめ: 自己表現の作品を仕上げる	講義・演習	まとめ課題に取り組み提出する。	6	
試					

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	78	12	0	10	100	
総合力指標	知識・技術力	0	26	3	0	0	29	
	思考・推論・創造する力	0	0	3	0	0	3	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	26	3	0	0	29	
	コミュニケーション力	0	26	3	0	0	29	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	自己表現の課題を全 13 回、各回 6 点、計 78 点配点で課す。学びを取り入れた課題作成を評価して、課題の質は評価で問わない。				講評を付して返却する。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	学び得た成果として、自己表現のまとめ課題を作成する。12 点配点とする。「分かりやすい」作品になっているか、課題の質を問う。				講評を付して返却する。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	「恥ずかしい」「自信がない」等の感情を生じるかもしれないが、積極的な受講態度を高く評価する。				演習内で指導する。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	本科目の担当講師は、臨床心理士及び公認心理師資格を有し、21 年の心理相談業務の経験がある。							
実践的授業の内容	医療分野を主とした現場経験に加えて、教育・司法分野でのコンサルタント経験を活かして、コミュニケーションにおける心理学的意義を実感できる真摯な見識を学生に教授する。							
そ の 他	「自己表現とコミュニケーション (Advance)」を履修希望する者は、「自己表現とコミュニケーション (Basic)」を単位取得済みであることが望ましい。 登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われ得る。							